



みつぎっ子

学校教育目標

「やさしく かしこく たくましく」

〒400-0048 山梨県甲府市貢川本町8-1 TEL (055) 222-2408 FAX (055) 222-2407 文責：校長 伊東

寄贈(「二宮文庫」)のご報告



二宮金次郎像の移設については、昨年度、9月6日付の「みつぎっ子 第18号」で紹介をさせていただきました。昭和15年、地域にお住まいの小林恒兵衛氏によって寄贈され、昭和41年に現在の新しい貢川小学校に移設されるはずだったもののトラブルが発生し、いったん小林家で保管された金次郎像。この度、50有余年の歳月を経て、貢川小学校に移設されたことを受け、寄贈者である恒兵衛氏の女孫にあたる関千鶴子様が、移設の記念にと「壹拾万円」を寄附してくださいました。一度はお断りをさせていただいたのですが、最終的には、お祖父様、そしてお父様の意志を受け継いだ関様の熱いお気持ちに打たれ、児童用図書を購入費用にさせていただくことにしました。

図書の選定に当たっては、図書館司書の中國先生にお願いしました。歴史漫画を多く採用していただき、ちょうど壹百冊を購入させていただくことができました。金次郎像にちなんで、「二宮文庫」と称して、図書館の入り口近くに置かせていただきました。歴史が好きになる、本を読むことが好きになる、そんなきっかけになってくれることを期待しています。

ちなみに「寄贈プレート(右下写真)」ですが、予算を捻出できませんでしたので、100均ショップでフォトフレームを購入し、ゴールドシートにプリントアウトをして作成してみました。少しは高級感が感じられる仕上がりになりましたと思います。

関様、この度は誠にありがとうございました。



「家庭訪問」を廃止して、「個別懇談会」を実施します

本校では、昨年度と一昨年度、感染症まん延防止対策として、従来より実施してきた家庭訪問を見送ってきました。更には、学級・学年懇談会についても、思うように実施することができませんでした。コロナ禍というイレギュラーな状況下ではあったにせよ、保護者の皆様と学級担任がコミュニケーションをとる機会が非常に少なくなっていました。特に、クラス替えがある学年の保護者様にとっては、一種の情報不足となり、不安な気持ちをもたれていたに違いありません。この2年間のコロナ禍の中での教育活動を振り返り、先ず「家庭訪問」について見直しましたのでご報告をさせていただきます。

そもそも家庭訪問は、「担任と保護者の顔合わせ」「自宅の場所の確認」「通学路の確認」「家庭の状況把握」などを目的とされてきました。しかし時代も変わり、自宅の場所は、インターネットの地図でわかるようになり、緊急時にも、保護者にメールを配信することで、学校まで児童を迎えに来てもらえるようになりました。また、何かと制約の多い家庭訪問を実施するには、事前に保護者との時間調整が必要であり、人数が多いクラスの受け持ちは、正に分刻みのスケジュールに追われながら日程をこなさなければなりません。また、多くの教師が、事前に休日を使って下見を入念に行った上で日程を組まなければならないなど、労力がかかる一方、各家庭では短い滞在時間（10分以内）となってしまう、じっくり話を聞くことはできませんでした。わずかな時間のために保護者の方々には仕事を休んでもらわなければならない、大きな負担をかけてしまっていたのです。

そこで、上記のような実態を鑑み、以下に示す5点を理由に、これまで1学期に実施していた家庭訪問を廃止し、個別懇談会を実施することといたしました。

- ①感染症対策が取られている時期においても実施ができること。
- ②保護者の皆様の負担を軽減できること。
- ③1学期の早い時期に顔合わせができること。
- ④懇談の時間を正味15分間確保できること。
- ⑤授業時数の確保に有効であること。



個別懇談会については、これまで、2学期末にも実施していますので、1年間に2回の個別懇談会を実施することとなります。新年度がスタートし、一日でも早く、保護者の皆様と担任が顔を合わせ、様々な情報を共有できる時間になればと考えます。来週には、計画表を配布しますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

校庭では1年生が・・・

1校時、1年生が校庭に集合しました。何をやるのかなと気になり、カメラを持って私も校庭に出てみました。何が始まるのでしょうか。興味津々、近くに行って見ていると・・・

まず始めに、「水筒の置き方」を教えてもらっていました。水筒は、感染症対策から、間隔を空けて置き、その間隔を保ったまま、黙って飲水をするように教えてもらっていました。

次は、「整列の仕方」でした。本校では、号令による整列は行っていません。声を出さないハンドサインによる整列の仕方を教えてもらっていました。『グー』『パー』の組み合わせによって、『気をつけ』『前にならえ』『直れ』『休め』『座りましょう』『立ちましょう』これら6つの指示は、ハンドサインで出されます。大きな声を出さなくても指示が通る。子どもたちは指示を見逃さないために、自然と集中する。そして、声を出さないのが感染症対策になる。これらがハンドサインに切り替えた理由です。最初のうちは難しいかもしれませんが、頑張っただけで覚えて欲しいですね。

そして、「安全な遊具の使い方」も教えてもらっていました。「鉄棒の正しい使い方」「滑り台の正しい使い方」等、安全かつ楽しく遊具を使うためのルールを、ひとつひとつ丁寧に教えてもらっていました。これから休み時間になると、遊具を使って自由に遊ぶことができるようになってくると思いますが、ルールをしっかり守って、怪我をしないように気をつけながら、思いっきり遊んで欲しいと思っています。



【水筒の置き方】



【整列の仕方】



【鉄棒の使い方】



【滑り台の使い方】